月刊
オリーブ
2015
8
Vol.3
―真の更生を目指して―

「オリーブの家」の生い立ち

全国の皆さんの尊いご支援に心から感謝致します。今月号では、「オリーブの家」がどのようにして誕生し、どんな困難を乗り越え、更には今後に向けてどんな希望を抱いているのかについてご紹介致します。

私が青木兄と出会ったのは、横浜から阿蘇の山麓に越してきた２０１２年のことでした。そして、熊本に来て導かれたのが、青木兄も集っておられた教会だったのです。

その教会の牧師から、ある相談を持ちかけられ、その内容は、私のビジネス経験を活かして、青木兄のお手伝いをして欲しいというものでした。彼の出所後の夢（更生保護活動に第二の人生を捧げる）は知っていましたので、お話を聞くことにしました。これが私たち夫婦と青木兄との関わりの始まりでした。

更生保護活動を具体化するために色々模索する中で、ハーベスト・タイムの中川先生のお話をしたところ、なんと青木兄は入所中から中川先生と文通していたとのことでした。ならばと、早急に中川先生にご相談することを持ちかけ、その後は、まさに重く垂れこめていた厚い雲が急に晴れて行くようでした。

２０１３年７月初旬に恵比寿で中川先生ご夫妻と青木ご夫妻がお会いし、教会と信仰、さらには更生保護活動についてお話されました。晴れやかな表情で熊本に帰って来られた青木ご夫妻の輝きに満ちたお顔は、今でも印象に残っています。

１０月、熊本聖書フォーラムの清水長老宅に中川先生がお見えになり、更生保護施設立ち上げに向けた会議が持たれ、福祉活動団体の設立と組織化がその場で決められました。理事長となられた青木兄の義兄が法務省を訪ねて施設の概要と設立に向けた課題を調べ、私達は熊本の保護観察所で具体的な手続きについて相談し、運営上の資金計画と対策は清水リーダーが組み立てる等、分担作業を行いました。１２月には事業計画作成、保護観察所の許認可、施設準備などについて具体的な活動に入りました。

この当時、私は明らかにもうお一人、共に働いておられるお方を感じざるを得ませんでした。というのも、必要な時に必要なものが用意されていく不思議な現実を見たからです。まず、青木兄の出所二ヶ月後の２０１１年５月に、自立準備ホームという国の新たな制度が設けられたこと。中川先生をはじめ必要な人知が集められたこと。そして何よりも困難であった出所者を受け入れる物件の問題。また、資金の問題。これら全ては誰かの努力ではなく、上から与えられたものでした。そして、時間軸においてもそのスピード感は、まるでＦ１レーサーになったようでした。その翌年２０１４年２月には物件が与えられ、正式に施設として国から認可され、また同時に多くの尊い献金が集まり、３月には初めての入室者（ファミリー）を迎えることが出来ました。今では、県内の更生保護活動協議会に正式に参画することも認められるＮＰＯ法人となっています。

私達の活動はまだ始まったばかりです。日々、ファミリーの抱える自立に向けた困難と向き合い、支援していく事は一筋縄では行きません。でも、希望があります。オリーブの家での日曜ごとの礼拝にファミリーの皆さんが導かれ、信仰を持つに至った方も起こされています。今後、これまでとは大きく変革された歩みを始められる方々が多く起こされることを確信しています。これからもどうか、オリーブの家を温かく見守っていて下さい。

オリーブの家
理事
浜崎　望

入室者の声

●中川先生にお会いして思ったこと、感じたことを少し話します。

我が父、青木さんの善き理解者であることは少し聞いておりました。更生、自立の場を提供し、無事に社会復帰をさせていただいた私にいろいろ質問をしてくれました。その言葉は優しくもあり、その中に凄い厳しさもありました。

自分の感じていたオリーブの家の家族的で暖かい施設ですが、中川先生はまだまだ充実した施設の生活、沢山の方々の自立を目指している、それはその幸せを皆がわかち合い、すべての私達のような立場、境遇の方々にこの喜びを与えようとしているように感じました。

留置場、拘置所、刑務所では、いや、今まで生きてきた中でも教えてくれなかったこと、感じられなかったこと、考えられなかったことをオリーブの家は与えてくれたと思います。少し生意気かもしれませんが、これから先、同じような気持ち、喜びを感じることが出来る方々が少しでも多くあるよう、自分の出来ることは頑張りたいとおもいます。（7／4　ファミリーの会　Y・Yさん）

先月の18日に中川先生ご夫妻を東京よりお迎えし、食事会が催されました。中川先生より質問をうけたYYさんは感動し、また、将来に向けたビジョンを強くされたようです。ファミリーの会の中心になってくれることを期待しています。

●何時も感謝の言葉を頂きまして本当にありがとうございます。これもひとえに施設長始め「オリーブの家」の関係者皆様のお陰です。もともと掃除は今村さんを見習って始めたことですが、私自身は車の量が少ない6時からと言う時間帯に固定し、有言実行したままです。今までの人生でこんなに他人から喜ばれて感謝されたり、献血も同じですが、人の役に立てていることがとても嬉しく思います。昨日もパソコン教室で一分間スピーチがあり、お題は最近感謝されて嬉しかった事というテーマでした。この内容で先日の母の日・父の日のプレゼントを熊本の「オリーブの家」の両親だと慕う人にしたという話をしたら、皆が感動していました。堂々と人前で、善行を話せる自分にも、少しずつ内面から変わる努力を続けている事にも驚いております。引き続き、自立に向けて一日一日を大切に日進月歩で望んでいきたいです。今日の祈り「イエス・キリストの父なる神さま。あなたの愛から漏れている人はいません。そのことを覚え、今日もこの世に出て行くことができますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン」

今は、パソコンを学び、聖書とクレイでデボーションをしておりますが、次の目標は、神学を私も必ず学びたいと強く思っております。本当に信仰を導いてくれた施設長には感謝の気持ちで一杯です。しっかりと天のお父さんを信じて頑張ります。ハレルヤ！（6／23　H・Kさん）

彼は、現在パソコン教室の職業訓練を受けています。早朝の周辺掃除も率先して行い、他のファミリーの模範となっています。本人の記事にも見られるように神学を学びたいと、仕事・学び・信仰と三本柱で励んでいます。

●私は今日まで、聖書に関して初めての経験で、内容に関しては良く分からない面もありますが、青木さんの今日まで体験された事に心を打たれています。私も66歳まで生きてきて、自分の愚かさに後悔しています。残りの人生を含めてイエス・キリストに感謝しています。愚かな人間ではありますが、今後とも御指導の程よろしくお願いいたします。（6／29　A・Oさん）

オリーブの家では最年長のOAさん。彼は、自衛隊の経験もあり、ある意味、心に強い物を持っています。その強い物を全て神様に委ねたとき、彼の信仰は本物になると信じます。

コメント・青木理事長

皆様からの温かいご支援に感謝いたします。

銀行振込

肥後銀行（銀行コード：0182）
京町支店（支店コード：156）
口座番号：（普通）1574408
口座名義：NPO 法人 オリーブの家
トクヒ）オリーブノイエ

郵便振替

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：990）
口座番号：17180-5444801
口座名称（漢字）：NPO 法人オリーブの家
口座名称（カナ）：トクヒ) オリーブノイエ
（他銀行からお振込の場合は）
店名：七一八（読み：ナナイチハチ）
店番：718
口座番号：（普通）0544480

2015 年　会計報告（6 月）

先月より繰越					1,503,757 円
収入	公的援助	702,237 円	支出	家賃	220,000 円
				水光熱費	54,783 円
	献金	509,000 円		食費	193,592 円
				人件費	359,421 円
	その他	94,671 円		その他	384,256 円
				施設準備積立	100,000 円
	収入合計	1,305,908 円		支出合計	1,312,052 円
収支合計					-6,144 円
翌月繰越し現金預金					**1,497,613 円**

※ 5 月末繰越金 1,931,617 円から 427,860 円が敷金として支出されました。そのため、月初の繰越金が 1,503,757 円となっています。

月刊　オリーブ
2015 年 8 月 1 日発行
（毎月 1 回発行）第 3 号

編集・発行　NPO 法人「オリーブの家」
〒860-0082　熊本県熊本市西区池田２丁目９番１号　コーポ池田201
TEL＆FAX　096-342-4123　e-mail 0110harvest@gmail.com